

会 議 録

会議の名称	令和5年度所沢市自立支援協議会 第1回定例会
開催日時	令和5年5月23日(火) 14時から16時
開催場所	所沢市役所 8階 大会議室
出席者の氏名	<p>会 長 梅本 晶絵 委 員 本坂 朗敬、野崎 裕子、田邊 純子、田島 誠、 都 弓美、吉居 知咲、小野 友佳、後藤 盛聡、 岩田 無為、宮武 奈津、小野寺 祐樹、 横須賀 邦子、安田 美代子、青木 咲奈枝、 鈴木 恭子、内海 文江、小内 正秋、松本 弘、 高橋 清子、鈴木 浩司 オブザーバー 後呂 由紀子、内野 誠</p>
欠席者の氏名	水村 慎也、豊田 淳一、大門 竜司、近藤 真弓
議事	<p>(1) 所沢市自立支援協議会の協議内容及び部会の編成について (2) 令和4年度各部会活動報告及び令和5年度各部会活動計画について (3) 令和4年度所沢市相談支援事業委託事業所の事業報告について</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 所沢市自立支援協議会委員名簿 ・ 自立支援協議会の協議とは ・ 所沢市自立支援協議会運営要綱 ・ 令和4年度各部会活動報告書及び令和5年度各部会活動計画書 ・ 令和4年度相談支援事業業務委託事業報告書
担当部課名	<p>福祉部 前田部長、内野次長 障害福祉課 一色課長、井上主査、岩崎主査、新井主査、 山田主査、松下主任、松尾主任、奥住主任 こども福祉課 加賀谷課長、宮武主査 保健センター健康管理課 松井課長、小野寺主幹、矢部主任 (事務局) 福祉部障害福祉課 04-2998-9116</p>

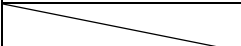
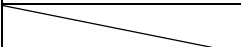
発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	1 開会
	課長あいさつ
事務局（市）	市長あいさつ（部長代読）
委員	委員あいさつ
	会長の選出
委員・事務局	委員より会長に梅本氏、副会長に小野寺氏が推薦され、全会一致で承認される。
会長・副会長	あいさつ
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配布資料の確認 ・ 所沢市自立支援協議会運営要綱の規定により、会議の議事進行を梅本会長に委任
会 長	傍聴希望者数の確認。（傍聴希望者なし）
	2 議事
	（1）所沢市自立支援協議会の協議内容及び部会編成について
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援協議会の協議内容及び部会の編成について、資料のとおり説明
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質疑応答・意見交換 ・ 全会一致で承認される
	休 憩
	（2）令和4年度各部会活動報告及び令和5年度各部会活動計画について
委 員 （さぼっと）	<p>こども部会令和4年度活動報告（内容は資料のとおり）</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後等デイサービス事業所見学会を実施、市内の学校関係者等が参加。児童に対する支援の仕組みなどを学ぶことができ好評いただいた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童のライフステージや環境の変化における関係機関のスムーズなバトンパスの実現と情報共有の場が不足。 ・ 抽出された課題の解決に向け、参加事業所をグルーピングし、実効性のある施策の検討が求められる。 <p>こども部会令和5年度活動計画（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ「バトンパスを極める。途切れない、つなぎ目の支援」 ・ 定例会は「知的グループ」、「情緒グループ」と児童の対象像を分け実施。ライフステージごとで発生する課題を抽出し議論していく。 ・ 放課後等デイサービス見学会については引き続き実施する。

<p>委員 (こみゅーと)</p>	<p>しごと部会令和4年度活動報告（内容は資料のとおり）</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援グループと就労継続支援B型グループに分かれ各グループに合わせた具体的な内容で活動を実施。 ・部会を通してネットワークを構築。継続して実施したことで、より顔の見える関係になり、活発な意見交換が出来た。 ・引き続き所沢市こどもと福祉の未来館の1Fガレリアにて、ぷらっとまーけっとを実施。障害者週間記念などイベント時も参加した。売上も安定し地域にも根付いている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の抽出が難しく、しごと部会の今後の在り方の検討が必要となった。 ・ぷらっとまーけっと、ガレリア販売について、今後、参加事業所同士で調整し継続していけるよう仕組みづくりをする。 ・「就労支援事業所紹介パンフレット ver. 2」を作成。年度内に完成させる予定だったが、誤植等があり現在再度見直しを行っている。 <p>重症心身障害部会令和5年度活動計画（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度より重症心身障害部会を立ち上げる。 ・まずは重症心身障害者像の確認、それぞれの立場からの情報共有を実施し、実態等を把握したいと考えている。 ・7月に施設見学を実施予定。 ・サービス提供事業所から話を聞く機会を設ける。 ・保護者・家族への支援について協議を行う。
<p>委員 (どんぐり)</p>	<p>こころ部会令和4年度活動報告（内容は資料のとおり）</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会は精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る協議体とし、全体会は顔の見える連携強化の場、地域の課題を取り上げる場、研修の場とした。 ・上半期は医療と福祉の地域課題を取り上げ、市内3病院よりメンタルヘルスソーシャルワーカーを招き病院の現状等を報告いただき、意見交換を実施した。 ・下半期は「1人暮らしを支える」をテーマに、こころ部会委員を講師に各機関での対応について協議した。 ・全体会は「利用者を再発させないための取組み」をテーマに、こころ部会委員を講師に各機関での対応について報告した。 ・こころ部会委員を中心とし、福祉サービスのミスマッチについて調査、検討するプロジェクトを実施（プロジェクトR） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上、下半期でテーマを分け協議したが、総合的な地域課題の内容であり「ケアシステム構築」に向け継続的な課題とした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の問題は他分野に内在されることが多く、他分野それぞれの動きを理解し連携強化を考え、高齢者、こども福祉等との連携を新年度において重点的な課題とする。 <p>こころ部会令和5年度活動計画（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議の場とする。 ・医療関係機関・団体とのネットワークづくりを進める。 ・こども、高齢者等他分野と連携の強化を図る。 ・地域の精神保健福祉の課題に関して検討を深める場としての機能を生かす。
<p>委員 （基幹相談支援センター）</p>	<p>くらし・研修部会令和4年度活動報告（内容は資料のとおり）</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例部会は地域の課題について協議を実施した。 ・利用者支援の質の向上を目的とし、研修企画チームを結成。「障害者虐待防止権利擁護研修(動画配信)」と「福祉サービス事業所同士の理解を深める研修会」の2研修を開催した。 ・「グループホーム連絡会議」を開催し、グループホームにおける人材の確保・育成において工夫していることについて意見交換をした。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームや福祉サービス事業所同士が意見交換出来る会議や研修会を開催し横の連携を大切に、地域で障害のある方を支えていくことに繋げる。 ・研修企画チームのメンバーを中心に研修の企画、運営も引き続き行っていくが、昨今の障害者虐待の内容も踏まえ、障害理解を深める研修や利用者の意思決定支援について考える等の内容を盛り込み、地域で人材育成を考えていきたい。 <p>研修部会令和5年度活動計画（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修部会に名称を変更。グループホーム職員等連絡会議は部会とは別に継続する。 ・障害福祉サービス事業所の現場職員を中心とした研修企画チームを軸に研修の企画、実施をしていく。 ・障害者の意思決定支援など権利擁護に関わることや、地域の事業所間のネットワークの構築に繋がる内容など、障害種別やサービス種別に共通する内容の研修を実施し、地域の障害福祉の質の底上げを目的に実施していく。
<p>委員 （基幹相談支</p>	<p>相談支援部会令和4年度活動報告（内容は資料のとおり）</p> <p>【成果】</p>

<p>援センター)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定例部会ではテーマを基にグループ討議を行い、課題抽出を行った。今後の社会資源の開発に役立てると良いと考える。 ・グループミーティングでは、所沢市委託相談支援事業所を中心にケース検討や書式確認、各事業所との意見交換を実施。 ・筑波大学の小澤先生や市役所職員を講師とした研修を実施。 ・相談しゃべり場は、相談支援事業所をひとりで運営する相談支援専門員が参加、「相談ができて安心した」などの意見を聞くことができた。 ・相談支援従事者初任者フォローアップ研修は、研修企画チームを構成し、講義や事例、ロールプレイなどの企画を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議や打ち合わせ回数が多く、参加者が負担に感じる部分もあった。効率よく会議を開催していく方法を模索したい。 ・グループスーパービジョンを開催することができず、来年度に持ち越しとなった。来年度は計画的に実施できるようにしていきたい。 <p>相談支援部会令和5年度活動計画（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの課題に対応するため、部会運営について実施方法を見直した。 ・多忙な相談支援専門員が各会議や研修にて、得るものがある様に効率的、効果的な会議の実施を行う。 ・グループスーパービジョンやグループ会議内での事例検討等を行う事で、個別の支援や地域課題の抽出、検討等、質の高い相談支援をできるようにしていく。
	<p>質疑応答・意見交換</p>
<p>委員</p>	<p>しごと部会が重症心身障害部会へ変更する理由は。</p>
<p>委員 （基幹相談支援センター） 事務局補足※</p>	<p>しごと部会は関係機関の連携やぷらっとまーけっとの継続開催などを行ってきた。</p> <p>これは、自立支援協議会の本来の目的である、障害福祉関係機関をはじめ、関係団体、障害当事者並びに福祉、医療、教育、雇用等の従事者が、地域において障害者の生活を支えるため、障害福祉サービスの提供体制の確保及び関係機関によるネットワークの構築について、一定の成果が出ているという判断ができる。このことにより、「しごと部会」は、発展的な解散をして、次の地域課題に取り組むため、実務者会議で話し合い、重症心身障害部会を立ち上げることが望ましいと考えるため。</p>
	<p>(1) 令和4年度所沢市相談支援事業委託事業所の事業報告について</p>

<p>委員 (さぼっと)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・件数は資料のとおり。 ・電話等による相談件数が約430件増加。内容としては、他機関への連携、調整が増加。 ・専門知識を要するものは、医療との連携が必要なケース等。 ・虐待を受けたことのある児童にサービス等を導入することで、家庭への見回り体制を構築した。 ・家族が本人の年金を一時的に使用してしまい、利用料の滞納等になり、経済的虐待に繋がるケースが増加した。 ・知的障害者のピアカウンセリングを昨年より実施、次年度の年間計画や実施内容についての打ち合わせを行っている。
<p>委員 (こみゅーと)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・件数は資料のとおり。(なお相談方法別利用件数について、訪問に同行も含め、電話等にメールでのやり取りも含めた。) ・利用者数や相談件数は微増。昨年度と比べ全体の利用人数は大きくは変わっていないが、相談件数は1.1倍。委託相談では利用人数は1.1倍だが利用件数は2.3倍に増加した。 ・委託相談が増加した理由は福祉サービスに繋がっていない新規の方、特定相談の期間が切れた方を受けたため。 ・支援方法はコロナが下火になり、電話から訪問へつながる支援が増えた。 ・専門知識を要するものとして、触法者はキーパーソン不在のため、生活の場の確保が難しい。 ・福祉サービスの利用がなく長期間在宅の方は定期訪問を実施。 ・同行サービス等の福祉サービスの利用が出来ない方は必要性を精査した上で対応。 ・新たな取り組みとして、特例子会社に勤務をしている軽度知的障害のある方とピアサポーターとして契約。サロン形式でカウンセリングを実施。 ・地域資源に重度障害者向けのグループホームがない。 ・軽度でも特性上サービスにつながらない方がいる。
<p>委員 (どんぐり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・件数は資料のとおり。 ・相談件数は前年度比で項目により増減があるが、全体としては若干減少している。1人あたりの相談時間は増加。 ・言語化することが難しい、訴えが流動的等、1対1のかかわりが多く傾聴対応することが多い。 ・サービスにつながらず相談が継続しているケースに家族と同居している相談者が多く見られ、家族機能が低下する中、高齢の親との関係についての相談も増えている。 ・相談しやすい環境をつくることにより薬の過剰摂取等を防げるようにしている。

<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・件数は資料のとおり ・相談支援の入口として様々な機関からの相談が増加。 ・診断を受けていないため、医療につなげるケースが増加。 ・生活保護受給者の就労支援で、障害福祉サービス利用や障害年金申請に関する相談が増えている。 ・児童に関する相談は増加。児童に発達障害等がある、親に障害がある等、支援困難なケースの相談や不登校に関する相談も多く、教育センターに繋げるだけの対応に限界を感じる。 ・装具の支給を受けているが、自力での外出が難しい身体障害者について、利用できるサービスがなく、社会参加が制限されてしまうケースが数件あった。 ・相談支援体制の整備については、相談支援従事者初任者研修や現任研修について、研修講師に協力し受講枠が増えた。 ・新規に開所する相談支援事業所もあるが、障害福祉サービス利用者は年々増加しておりマンパワーが不足している。 ・ケースにより受け入れが難しく、対応しきれず委託相談支援事業所や基幹相談支援センターに戻ってしまうこともあり、質の高い相談支援や適切なケアマネジメントに課題がある。 ・精神障害の方がグループホームでの生活が続かず、再発し再入院。その後、グループホームへ戻れないケースがある。しっかりとしたアセスメントが必要となってくる。 ・障害者がいる家族間のトラブルから警察介入に発展し、後日、市に対して警察から虐待通報という形で報告があがるケースが増加。こころの健康支援室と対応を検討していく。 ・グループホーム等生活の場での虐待や、放課後等デイサービスでの事例があった。 ・同居家族の急死や急病で緊急短期入所に繋ぐケースが多い。短期入所未経験の人は、緊急時でも速やかに入所に繋がらず難航する。緊急にしないために、早期から短期入所など体験の機会に繋げる予防的視点での支援が必要だが、本人の障害特性や保護者の意向により支援に繋がりにくいことがある。
	<p>質疑応答・意見交換</p>
<p>委員</p>	<p>不登校児が相談につながるケースがあると話ができたが、どのように福祉につながったのか。</p>
<p>委員</p>	<p>所沢特別支援学校の教育相談を経由し相談があった。学校教育が終了した後、将来の見通しが立たず相談に来ている。教育センターへは相談済みで今後の協力も検討している。</p>
	<p>事務局より連絡事項</p>
<p>事務局（市）</p>	<p>次回の定例会は10月頃の開催を予定している。詳細については決まり次第改めて通知する。</p>

会 長	本日の議事を終了とする。
	3 閉会
副会長	副会長あいさつ